

「成瀬から世界へ！！」

2年男子

12月17日(火) 成瀬高校の近くにあるオーディオテクニカ本社に見学に行きました！

入り口を抜けるとその先には螺旋階段と複数の蓄音器の展示がありました。

私たちはそのうちの3つの蓄音器を実際に聞かせていただきました。

中でも一番大きい「蓄音器の神」などと称されるビクトローラの蓄音器の音楽は本社中に響き渡りました。

蓄音器を聞いたあと、オーディオテクニカの歩みと仕事について話を聞きました。

1962年に創業者と従業員3人でオーディオテクニカを創立し、その3年後に成瀬の地に会社を建てました。

今では創業者の出身地である福井や中国・台湾に進出、アメリカ、カナダ、ヨーロッパ、中国、シンガポール、韓国などグローバルに販売を行っています。

オーディオテクニカでは利用する人により良い音を提供するために「always listening」というスローガンを掲げ製品開発につとめています。国内におけるヘッドホンシェアは9年連続一位で、カラオケマイクシェアはおおよそ75%だそうです。また、アトランタ五輪から平昌五輪にかけてマイクの供給をしており、その数は4000本前後です。

製品開発についてはヘッドホン、マイクロフォン、ミキサーの製造工程について聞きました。文系の私にとってはなかなか難しい話でしたが、どの製品も「お客様の声を吸い上げ、それを超えるような開発推進」をモットーにしていました。

また、成瀬高校の見学に行った生徒からなる4人グループ2チームが「今後求められる音とは」についてまとめ、発表していました。どちらの発表も好評をいただき、良い経験だったと思います。



「製品開発のための特殊室に感動」

2年男子

オーディオテクニカの社内見学に行ってきました。

建物がとてもデザイン性のある建物でとても印象的でした。成瀬高校から徒歩 10 分ほどの距離にあり、成瀬高校創立とほぼ同じ時期から創立されていて、なにか親近感のようなものがありました。

今回、私達は主に生の蓄音機の音、電波室、無響室を案内、紹介されました。

僕は今回蓄音機の音を初めて聞いたのですが、昔の映画のような音、針がレコードをする音にとっても驚きました。レコードを針ですって音が出るという仕組みにとっても驚かされました。

電波室はその名の通り電波が反射しない部屋でした。製品から変な電波が出ていないか、製品に強い電波を浴びせても誤作動などをしないかどうかをテストする部屋でした。壁が全て発泡スチロールでできていて、その奥に電波吸収剤がありました。電波室に入った瞬間にそこだけ音がないような感覚になりました。とても高価で巨大な電波を感知するアンテナがありました。製品は色んなテストを乗り越えて私達の手元に届いていることを学びました。

無響室はこれこそその名の通り音がない部屋、音が反射しない部屋です。室内は上下左右が特殊な形の音を吸収する素材で囲まれており、ワイヤーがクモの巣のように張り巡らされていてその上を人が立つようになっていました。3m もない距離の人の声も小さく聞こえ、不思議な感覚になりました。暗闇体験もさせていただいたのですが、視覚と聴覚がほぼ失われた状況になり、ただでさえ足元が不安定なので、平衡感覚がおかしくなりました。とても貴重な経験ができました。

今回の見学では施設を見せていただいただけでなく、私達のプレゼンをきいていただきました。企業の方に貴重な意見をいただき、とても良い経験をさせてもらいました。

↓無響室の写真



「成瀬高校入学時から気になってました。」

2年女子

12月17日に、audio-technicaの本社見学に行きました！！

成瀬高校の近くにある audio-technica はヘッドフォンが有名なイメージがありましたが、その他にもプロ向け・一般向けともに様々な製品を取り扱っています。



まずはじめに、特殊室に入らせてもらいました。電波暗室というところは、四方八方の壁面が白い発泡スチロールのようなもので覆われています。ここでは製品から異なる電波やノイズが出ていないかチェックします。電波をチェックするので、外の電波が入ってこないよう、また中の電波が外に出ないような仕組みになっています。

無響室は 360° 凹凸のある壁で覆われています。壁や扉は 1m の厚さがあり、部屋自体も少し浮いた構造になっているので周りの音が聞こえないようになっています。ここではマイクをチェックしています。中に入ってみると今までとみんなの声の聞こえ方が全く違ってとても不思議な感じがしました。音が聞こえにくかったり、遠くにいる人の声が近くに聞こえたりしました。人はかなり響いてる音を聴いているんだなと感じました。

他にも、製品の音をチェックするための部屋もありました。何日も籠もって音を聴き比べることもあるそうです。大きなスピーカーから出る音を正面から聴くと、音がとてもはっきり粒のように聞こえました。

次に、蓄音機の音を聴かせてもらいました。



手でハンドルを回して、レコードに針を刺して音を出します。電気などは使いません。前についている扉を開閉する事で、音量調節をします。100 年以上前のものなのに、素敵な良い音で驚きました。大小色々な大きさのものがありました。

そして、先日成瀬高校で行われたプレゼン選考会から選ばれた 2 つのグループが「今後求められる音とは」というテーマで社員の方の前でプレゼンをしました。



聴いていて私にとっての音とは何だろう？と考える機会にもなりました。社員の方のコメントも私達の視点とはまた違ってとてもよい刺激になりました。

今回の見学で 1 つの製品を作り上げるために、作り直したり、調整を行うことでだんだん理想と現実とのギャップを埋めていくことを知りました。とても根気のいる作業だけど、その努力のおかげで私達が安心して製品を使えているんだと感じました。また、成瀬高校に入学したときから近くにある audio-technica がどんな会社なのか気になっていたのも、それを知ることができてとても有意義な時間になりました。

今後色々なことに対して、これが当たり前だと決めつけず、新たな考え方を自分のなかで生み出して、何度も挑戦し、理想と現実とのギャップを埋めて、よりよい自分になれるようにしたいです。